

提案

日付：2024/4/8

件名：出産費用助成金について

1. 問題、課題

今年の夏に第一子を出産予定の者です。
寒川町には結婚を機に、田んぼに囲まれていながらも交通手段を選べば不自由しない暮らしができるところに魅力を感じ住宅を購入しました。

2024 年 10 月から横浜市では出産費用助成金の追加給付が開始するようです。
少し車を走らせた距離にお住まいの妊婦さんにはある手当が羨ましく思い、意見します。

寒川町には分娩可能な産院がありません。
必然的に横浜・茅ヶ崎・藤沢市の分娩可能な産院に通わざるを得ません。
市民病院も選択肢の一つですが、他の市区町村在住者は追加の費用がかかります。

2. 改善案

寒川町独自の妊娠から出産に対する補助・手当の充実を希望します。
通院にかかる費用、他の市区町村で出産するしかない為その分追加となってしまう費用の負担等検討いただけませんか。

国の少子化対策が期待できない中、昨今話題ですが明石市では市長主導で、ほんとうに必要な子育て支援を実現されてます。

寒川町という小さい単位だからできる支援を希望します。

移住支援を積極的に行われている中と存じますが、
町の人口維持・町の発展には子どもの数を増やすための支援
寒川だから一人っ子でなくもうひとり、となるような政策支援を希望します。

3. 改善後の効果

寒川だから家族をつくりたいと思える世帯が増えると思います。

回答

<出産費用助成金について>

【所管：子育て支援課】

今回、町独自の妊娠から出産に対する補助・手当の充実をとのご提案をいただきました。ご提案にありますとおり、町内には分娩可能な産院がなく、町外の産院等への通院入院に対する追加費用が生じることについては認識しているところです。一方で、分娩施設を、あえて希望して町外の産院等にされている方も一定数いらっしゃる中で、そうした方との区別が難しいことなどから、この部分に対する費用助成につきましては現状では難しいと考えております。

町では現在、妊娠届出時と出生届出時における面談後に、それぞれ出産応援・子育て応援の趣旨で各5万円の給付金を支給するとともに、妊娠中の妊婦健診費用や出産後の産婦健診費用、生まれた赤ちゃんの新生児聴覚検査費用についても費用助成を行っております。

また、町独自の支援としまして、育児用品カタログギフト（1万円分）や紙おむつ用ごみ袋（最大2年分）の無償配付を行っており、出生届出時にご案内するとともに、小児医療費助成制度につきましては所得制限なく出生時から高校3年生まで対象としております。

出産費用につきましては、令和5年度から出産育児一時金が50万円に引き上げられた中で、国においても昨年12月公表の「こども未来戦略」の中で令和8年度を目途に、その保険適用を含め、出産に関する支援等の更なる強化について検討を進めるということが示されたところです。

町としましては、現在行っている様々な給付金や費用助成、町独自の支援策などを通じて、町で出産・子育てをしたいと思っていただけるよう努めるとともに、国の動向や今後の社会・経済情勢を踏まえながら、ご提案のような事柄につきましては今後の検討課題と考えておりますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、通院に要した電車代やバス代（公共交通が利用できない場合はタクシー代）については、要件を満たす場合には他の医療費と合算して所得税の確定申告において医療費控除を受けられる場合がありますので申し添えます。